

「個」への対応  
**eisu**  
熊野市駅前校  
のいま

いま、eisu熊野市駅前校が注目されています。教育による地域活性化のモデルケースとして全国から注目を浴びています。この校舎の何が、そんな注目を集めのでしょうか？ 今回は自治体幹部・中央省庁や政党・民間企業・研究者など、地方行政関係者必読の専門情報誌『地方行政』(時事通信社)からの取材にeisu高校部 熊野市駅前校教室長 森下 昌弘が回答した内容を、一部抜粋・再構成して皆様にお届けします。

地域の真剣な熱意に応える

熊野市は三重県最南端にある人口約17,000人の市です。市内には県立高校は1つあるだけで、一般入試で大学受験を目指す生徒は、1学年200人程のうち20人程度。熊野市はいわゆる「過疎地域」にある、小さな地方都市なのです。

熊野市をこのように紹介すると、「それでは校舎を運営しても採算がとれないだろう？」という疑問をよく投げかけられます。もちろん、私がここに校舎を建てた訳ではありませんが、eisuがこの地に校舎を建てた意図については私なりに受け止めていることがありますので、それをお話しします。

どんなに人口規模の小さな地域であっても、質の高い教育を受け、学問を身につけ、日本・世界の中心地域に出向き活躍しようという熱烈な意欲を持った層が、数は少ないながら確実に存在します。もともとこの地域から「eisuに来てほしい！」という要望が多く寄せられていたようです。eisuは、三重県全域の教育水準の向上に貢献し、地域とともに発展・成長することを志向する企業です。従って、たとえ人口が少なくとも、三重県内の教育ニーズにできる限り応えたい、そういう使命感のもと、2004年に熊野市に校舎を開校するに至ったと聞いています。

私は熊野市に赴任が決まったとき、私の使命は何かを真剣に考えた結果、この地域の熱い教育ニーズに正面から応えること、それが第一だと心に銘じました。ここはいわゆる「過疎地域」であり、大学進学は決して当たり前のことではありません。それだけに、いったん大学入試に挑むと決めた生徒たちの真剣さは、大都市圏の生徒たちの比ではありません。私はこの真剣な熱意に正面から応えたい！そして三重の最南端から、日本の中心で活躍できる人財を育成する！それを仕事のベースに据えました。

人は必ず変われる

ただ、熊野で校舎を運営するに当たり、最大の問題として立ちはだかったのは、どうやって講師を確保するかという問題です。大学受験は、教科・科目が専門化・高度化し、多くの講師が入りしなくてはなりません。そうした講師を常時確保することは、海や山に囲まれた熊野市ではとても困難なことです。

しかし、こうした状況に風穴をあけ、画期的な方法で事態を開いたのが、東進でした。東進衛星予備校の創業理念には、「教育の機会均等」、即ち「日本全国のどんな地域でも、全国を代表する一流講師の授業が受けられるようにする」というものがあります。これこそ、熊野に必要なものでした。そこで2006年、eisu高校部に東進衛星予備校が導入されました。こうして、少なくとも授業や基本的な指導ツールについては、熊野市駅前校は日本のどこの予備校と比べても遜色ない体制が整ったのです。

体制が整うことで、私は自分個人の信念を思いつき追求する意欲が生まれました。その信念とは、人は「変わりたい」と思えば必ず「変われる」、勉強を通じてそれを経験できるのは本当に素晴らしい人生経験だ、というものです。その素晴らしい経験を必ず生徒たちに味わってもらいたい！その思いで日々生徒に接することに決めました。

先取り学習徹底！  
毎日登校毎日学習！

そうした信念を具体化するため、私ががけている点を5点にまとめました。

- ①生徒に高い目標を持つよう促す。
- ②私自身、数学をはじめ難関大受験問題に毎日取り組む。
- ③できるだけ早期から、多様な科目を学習させる。
- ④まずは「長所伸長法」で、得意な科目をとにかく伸ばす。
- ⑤「理想」を「現実」にするには「行動」が必要！この思想を徹底する。

熊野の生徒たちはそんな私の姿勢に応えてくれ、目覚ましい努力をしています。たとえば

●とにかく先取り学習がすごい！理系生徒は高1の1年間で、数学は数学Ⅲまで（高校で習う数学全範囲）、化学では高校化学の全範囲を学習し終えます。首都圏有名私立高校と同じ、またはそれより速



月間向上得点マラソンで優秀な成績を収め、よろこぶ熊野市駅前校の生徒たち

いスピードで勉強しています。この速さで勉強するからこそ、結果もついてくるのです。

●生徒の校舎への登校率は1日80%以上です。東進は家庭でも受講できますが、熊野の生徒は校舎に来て勉強します。校舎に来れば仲間の姿を見て向上心が刺激され、もっと勉強しようと奮い立つからです。



熊野市駅前校では、「毎日登校・毎日学習」を合言葉に、生徒たちが学年を超えて励ましあっています

熊野の生徒たちのこうした姿勢は、様々な「形」に表れています。たとえば熊野市駅前校は、東進の「向上得点マラソン部門」において、日本全国1,000校を超える東進衛星予備校の中で、3年連続年間全国1位を獲得しました。「向上得点」とは、生徒がどれだけ東進のツールを利用して努力したかを数値化したものです。つまり、eisu熊野市駅前校は日本一努力している校舎であると評価されたのです。

現役で志望大学へ

こうした日々の生徒たちの努力の結果は、成績の伸びと志望する大学の合格実績にも顕著に表われています。

2015年度は、自己採点によるセンター試験の校舎平均が730点（900点満点中）を越え、国公立大学合格率が100%になりました。名古屋大学2名、筑波大学、東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、首都大学東京2名、秋田の国際教養大学などに合格しています。最近でも、難関の名古屋大学医学部医学科や大阪大学に合格するなど、熊野市駅前校の生徒たちは全国の大学に進んでいきます。

いまの努力が、この先の人生を決める

私は生徒たちに、次のようなことをよく伝えています。

「高校3年間の努力が、この先何十年の人生をも決める」。

これは、「高校3年間しっかりと努力した生徒は、努力の習慣が身につき、大学4年間はもちろん、社会に出た後もしっかりと努力できる」という意味で、生徒たちに繰り返して伝えています。実際、熊野市駅前校の卒業生は、大学や大手企業の研究者、医者、教師、公務員など、様々な分野で活躍しています。

熊野市をはじめ、どんな地域にも、質の高い教育を受けたいと熱烈に求める生徒たちが必ず存在します。それに粘り強く、情熱と信念を持って向き合っていく、それが私たちの使命です。そしてこれら二つのものが出会うとき、生徒たちは美しく輝き、私たち大人も幸せになる。そんな必然性を、私はこれからも追い求めています。

最後に…

私個人にとって、「地方創生」というテーマは荷が重いものです。でも、教育のように、そこに人が住む限り、決して途絶えることのないニーズは存在します。それに粘り強く、情熱と信念を持って向き合っていけば、きっと活路は開けるだろうと信じます。私の拙い文章が、読者の皆さんのがかの役に立てば幸いです。

**eisu** 高校部  
熊野市駅前校 教室長  
**森下 昌弘**



名古屋大学大学院多元数理科学研究科 博士前期課程修了、平成16年度eisu入社。人口規模の小さい熊野市において自校舎をいかに「日本一」にするかにこだわり①生徒が日本一努力する校舎②生徒の成績が日本一上がる校舎③日本一第一志望校に合格する校舎を掲げて生徒指導にあたる。下記はその成果の一端であり、定量的に評価できる具体的な目標を生徒に与え、努力を促していく独自の指導法は、全国的に注目を集めている。

東進衛星予備校 一全国大会表彰一

- 向上得点マラソン部門 全国1位(3回)
- 運営エリア部門 近畿地区 優秀賞(4回)
- 12月1日継続部門 優秀賞
- 新年度スタートタッシュ部門 最優秀賞(3回。そのうち1回は、全国1位)
- 数学計算演習部門 全国1位

これだけでは言い足りない！というeisu森下のメッセージは、eisu WEBサイト・eisu高校部LINEでご紹介します。ぜひアクセスしてください！

